



3章 みどりの将来像と目標

3-1 みどりの将来像

和光市の地形は、武蔵野台地と荒川低地にまたがり、白子川、越戸川、谷中川により台地が浸食され、長い年月をかけて形成されてきました。そのため、東京都心から20km圏内にありながら多くの斜面林のみどりや、きれいな湧き水が存在しています。この豊かな「湧き水」と「みどり」は、一度失ってしまうと二度と取り戻すことのできないものです。

また、「みどり」には、存在することによる価値と、利用することによる価値の2つの価値があり、私たちには、良好な住環境やコミュニティの場を提供し、子どもたちには、身近な自然に触れられる場や、遊びの中で触発され好奇心を育てる学びの場を提供してくれるかけがえないものです。

だからこそ、この貴重な「みどり」は、和光市の宝であり、私たち大人が、子どもたちや、その先の世代に残し、つないでいかなければならないものです。

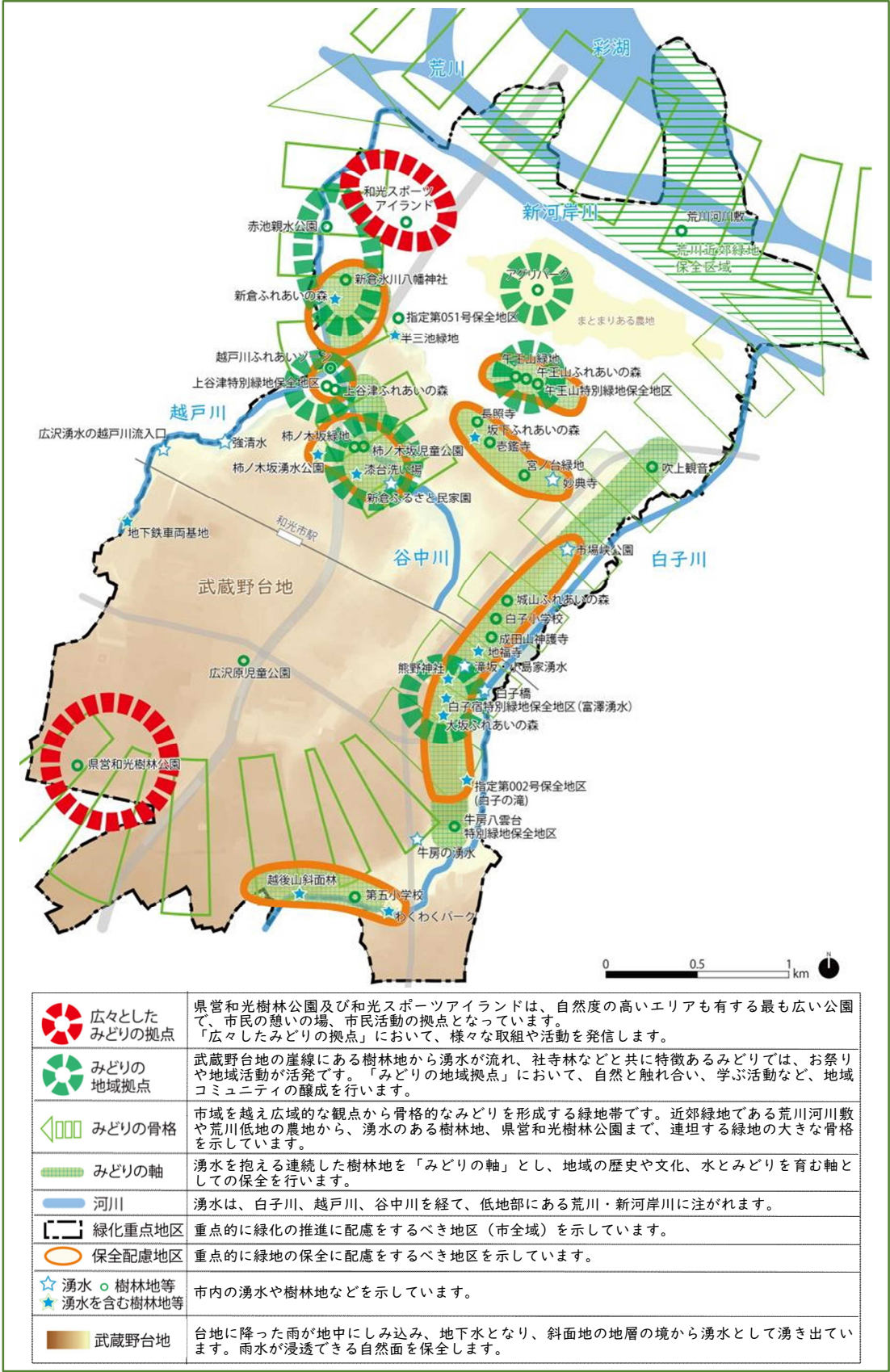
和光市の「湧き水」や「みどり」の中で、学び育った子どもたちが、この場所に愛着を持ち、大人になってもこの「湧き水」や「みどり」のみずみずしいまちで暮らしたいと思える場所を私たちが残し、維持していくことは大切なことです。

これらを踏まえ、和光市のみどりの将来像を以下のとおりとします。

子どもたちが大人になっても暮らしたいと思える
「湧き水」と「みどり」のまち



和光市のみどりの将来図は以下のとおりです。



1章	みどりの基本計画について
2章	和光市のみどりの現状と課題
3章	みどりの将来像と目標
4章	将来像の実現に向けた取組
5章	計画実現に向けて
資料編	



3-2 みどりの基本方針

(1) 4つの基本方針

将来像を実現するために、みどりのまちづくりの方向性として4つの基本方針を定めます。
これらの基本方針を踏まえ、施策を展開します。

基本方針 1

みどりの維持

豊かな水とみどりの空間を、安全で快適な生活を支える社会基盤（グリーンインフラ）や生物の貴重な生息地として守ると共に、みどりを一層市民に愛される場として育てていくことで、次世代に和光のみどりをつなぎます。



基本方針 2

みどりの創出

公共のみどりを生み出すと共に民有地のみどりを増やす取組を進めます。
また、地域の中の既存のみどりや空間を活かす取組を並行して進めます。



基本方針 3

みどりの魅力発信

多様で貴重な和光市のみどりの魅力を掘り起こし、多くの人にみどりの良さを発信すると共に、イベント等のみどりに触れる機会を増やし、その魅力を体感する取組を進めます。



基本方針 4

みどりのパートナーづくり

和光市のみどりを支えてきた団体の活動を支援すると共に、新たなみどりのパートナー※を育成します。そして、その活動をより活発にするために、団体同士の連携を促進します。さらに、企業や教育機関等と連携した取組を進めます。



※ みどりのパートナー：みどりに関係する活動を行っている市民や活動団体等を表します。



(2) 将来像を実現するための基本方針同士の関係

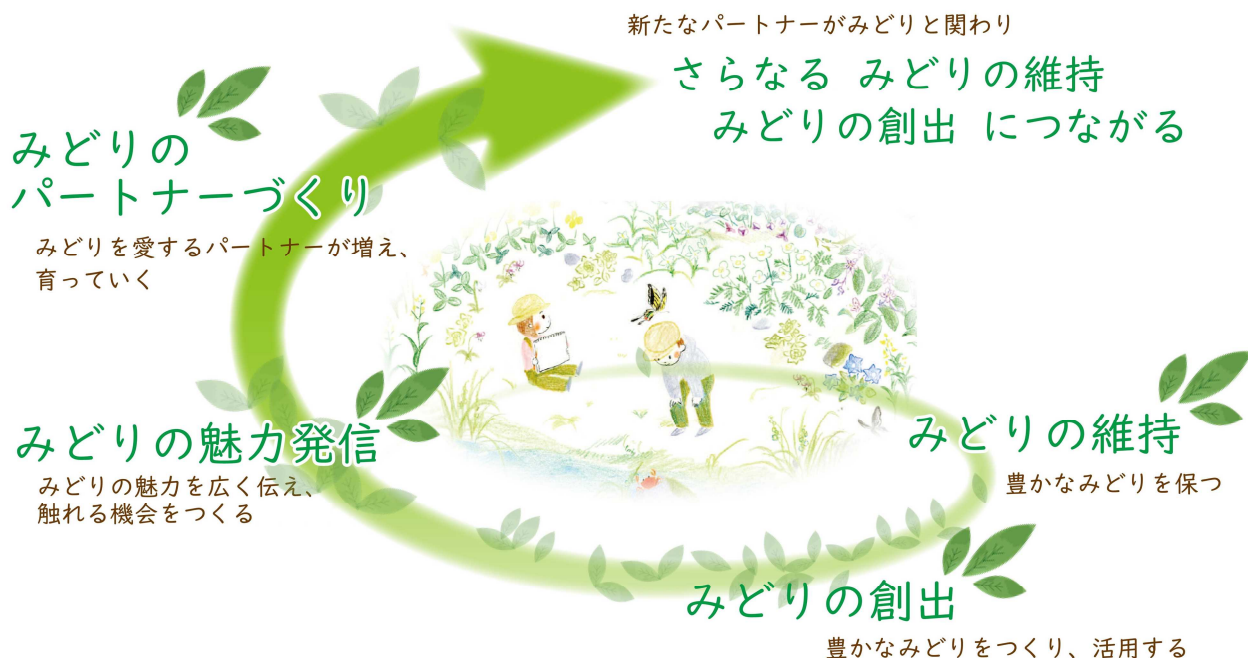
将来像を実現するためには、子どもたちにとって身近に「湧き水」と「みどり」を感じられる環境が残るように、今あるみどりを減らさないことが大切です。また、減らさないだけでなく、みどりを新たに作り出すことも求められます。

さらに、そのみどりに愛着を持ってもらうため、多くの人にみどりの魅力を発信し、その良さを実感してもらうことで、みどりに関心を抱き、愛する人を増やします。

そして、すでにみどりのパートナーとして活動している人を支援したり、みどりを愛する人からみどりのパートナーとして活動をするきっかけをつくったりすることで、みどりのパートナーを増やし、育てます。

その多くのパートナーがみどりの活動に関わることで、さらなるみどりの維持やみどりの創出につながり、より一層、みどりの質や量が向上し、豊かなみどりの環境になります。

このように、4つの基本方針が、みどりを育む持続的な好循環（スパイラル）を創り出すことにより、大人になっても暮らしたいと思える「湧き水」と「みどり」のまちを実現します。



基本方針の持続的な好循環関係



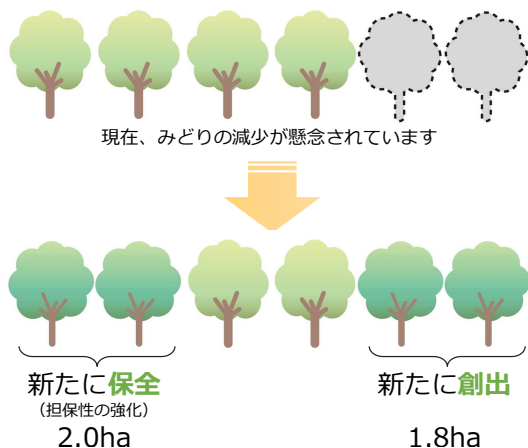
3-3 みどりの目標

本計画を進めていくにあたり、4つの方針に基づく取組の効果や、日々の暮らしにおけるみどりの豊かさを図る指標として、以下の5つの目標を掲げます。

基本施策ごとの目標について 資料編 p.26,27

目標1 保全・創出するみどりの面積

本計画の取組により、新たに保全するみどり※¹を2.0ha、新たに創出するみどり※²を1.8haにすることを目指します。



目標値

令和23年(2041年)

保全 2.0ha

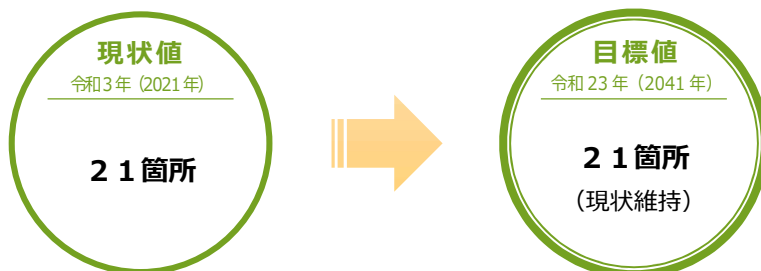
創出 1.8ha

※1 新たに保全するみどりとは、担保性の低い「市民緑地」や「借地公園」を公有地化したり、「民有地の緑地」を法や条例等により新たに指定したりしたみどりを指します。

※2 新たに創出するみどりとは、区画整理等により新たに創出する「公園等」を指します。

目標2 湧水の箇所数

本計画の取組により、湧水の箇所数を維持していくことを目指します。



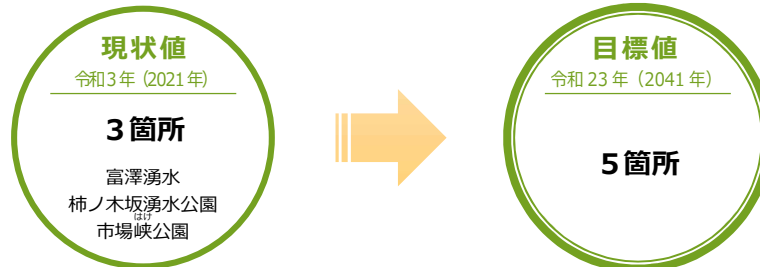
和光市の大きな特徴である湧水ですが、開発等により涵養域となるみどりが失われることで水源が絶たれ、枯れてしまうおそれがあります。現在、市内には富澤湧水、大坂ふれあいの森、白子宿特別緑地保全地区、漆台洗い場など21箇所の湧水を確認しており、取組によりこれら全てを維持します。

なお、本目標は「第3次和光市環境基本計画」と共通の目標となっており、目標達成に向けて環境基本計画と連携して取組を推進します。



目標3 湧水に親しめる環境の整備

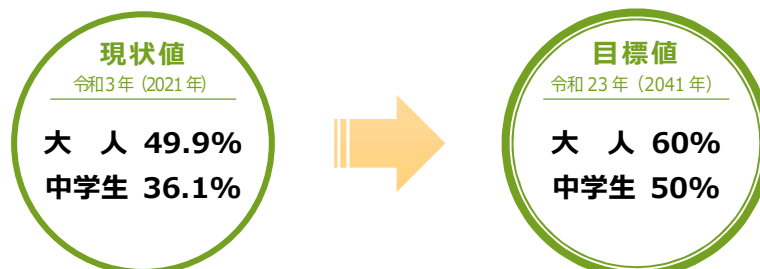
湧水がせせらぎとなって流れる様子が観察でき、そこで子どもたちが湧水に触れ合えるような環境を整備します。



湧水の価値や魅力をより市民に知ってもらうため、既存の湧水地の整備を行い、市民が楽しみ、身近に感じられる水辺を増やします。

目標4 みどりを市の魅力と感じる人の割合

本計画の取組により、みどりを市の魅力と感じる市民の割合を約10%高めます。



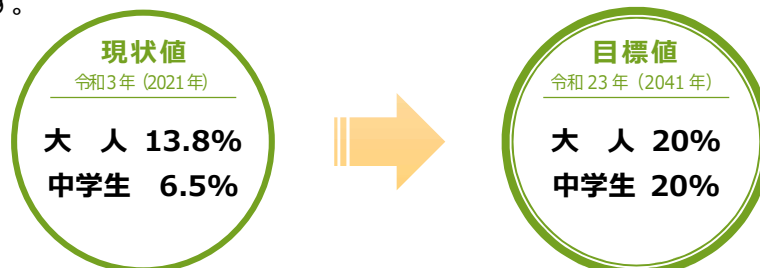
※ 都市計画マスタープラン策定のためのアンケートを指標として活用します。

現在、「和光樹林公園、荒川などの水とみどりに恵まれている」を市の魅力とを感じる市民の割合は、子どものほうが低い値となっています。大人も子どもも楽しめるみどりを増やすことで、みどりを市の魅力とを感じる市民の割合を高めます。

指標としたアンケートについて 資料編 p.24

目標5 「自然環境が豊か」なので和光市に住み続けたい人の割合

本計画の取組により、「自然環境が豊か」を定住理由として選択する人の割合を20%まで高めます。



※ 都市計画マスタープラン策定のためのアンケートを指標として活用します。

定住理由には、交通の利便性や買い物のしやすさなど様々な理由が挙げられていますが、豊かな自然環境を守ることで、みどりに親しみを持つ市民を増やし、この割合を高めます。

指標としたアンケートについて 資料編 p.25

